

UPROOTED

Japanese American
FARM LABOR CAMPS
during World War II

アップル・テッド

第二次世界大戦下の 日系アメリカ人農場労働キャンプ

大統領令9066号

日本軍海軍艦隊による真珠湾攻撃を受け極端な被害妄想と人種差別意識が高まるなか、1942年2月19日、フランクリン・D・ルーズベルト大統領は大統領令9066号に署名を行った。それはアメリカ合衆国に居住する12万人を超える日系人 — その3分の2近くはアメリカ市民権を有する — に対してアメリカ西海岸から強制収容所への**強制立ち退き・監禁**を承認するものだった。**1942年から1944年の間**には農場での季節労働のために約33,000もの個別契約が交付され、またその多くは砂糖大根産業に従事する契約であった。

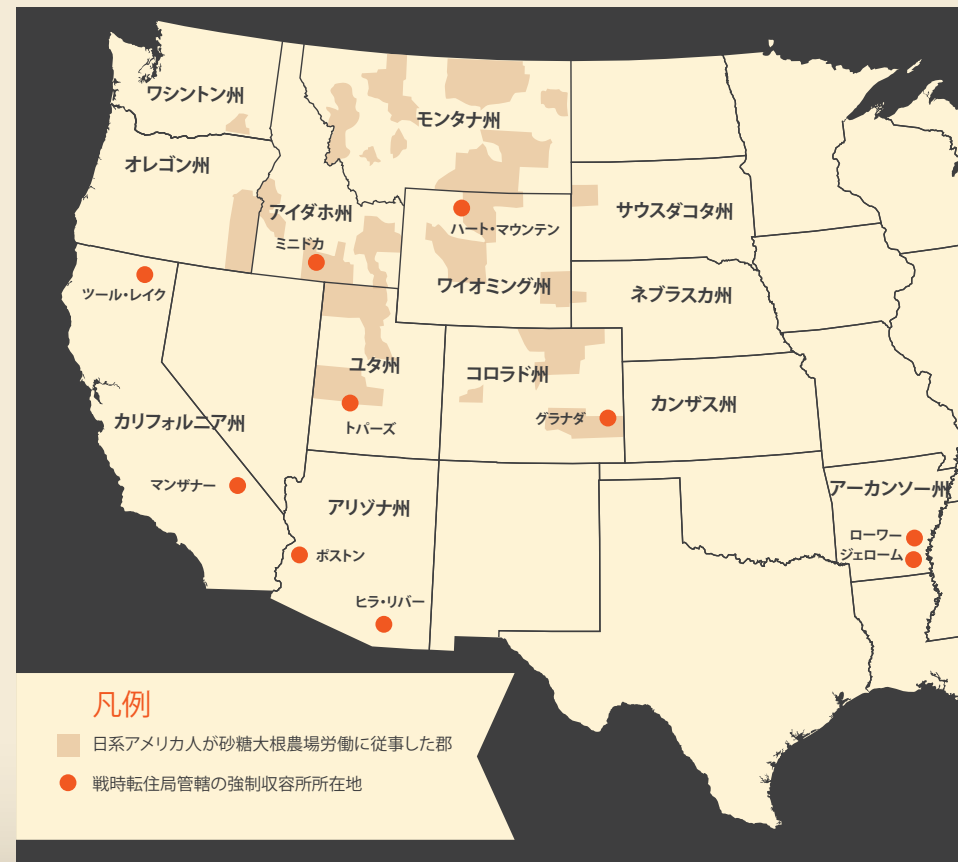
この展示会は彼らの物語紹介するものである。

砂糖の必要性

砂糖は戦時中の極めて重要な産物であった。砂糖大根は食料として、また工業用アルコールとして精製され弾薬や合成ゴムの製造にも使用された。1943年に米国ビート・シュガー協会は、16インチ・サイズの銃が発砲されるたびに5分の1エーカー分の砂糖大根があっけなく消える、と声明した。日本との戦争によりフィリピンからの輸入砂糖の制限を受け、アメリカ合衆国連邦政府は砂糖大根の栽培制限を解除し、耕地面積を25パーセント拡張させた。砂糖大根の栽培と収穫のため季節労働者の需要は急増した。アメリカ西部州の製糖会社、農場経営者、州や地元の役人たちは軍需産業への従事や徴兵による人員不足を補うため、日系人の労働力を求め騒ぎ立てた。

オレゴン・プラン

アメリカ合衆国連邦機関によって設立され、監禁収容を執行・管理した戦時転住局(WRA)は、1942年の春、強制労働収容所の設置を検討した。しかしその着想は、日系人労働者受け入れ予定の地域社会に暴力をもたらすことを連邦機関が恐れたため、否認された。いくつかの州は日系人を砂糖大根農場で働かせるべく独自の日系人移住計画を考案した。いわゆるオレゴン・プランは、州知事、チャールズ・スプレイグの秘書官を務めたジョージ・エイケンが考案し、オレゴン州に在住する日系人4000人をオレゴン東部の3郡に放置されていた市民保全部隊キャンプ地に転住させ、農業や公共事業に従事させるという計画であった。このオレゴン・プランは結局のところ戦時転住局に却下されたが、初の日系アメリカ人農場労働キャンプをオレゴン州ナイッサに設置するという結果をもたらした。これは戦時転住局による季節労働出所プログラムの始まりであった。



季節労働出所プログラム

深刻な農業労働者不足に対処するため、季節労働出所プログラムは農業従事を理由に日系アメリカ人が集合センターと呼ばれる仮設収容所と、強制収容所から出所することを許可した。このプログラムに参加するにあたり州や地元の役人たちは秩序を維持し労働者の安全を保証する、また労働は自発的なものとする、外部からの労働力は地元の労働力と競い合わない、雇用主は一般的な賃金を支払い住居と交通手段を提供する、といったことを確約しなければならなかった。この農場労働計画は、戦時転住局が日系人を強制収容所から出所させアメリカ合衆国の内陸部へ移住することを推進した、より規模の大きな再定住計画の先駆けであった。

日系アメリカ人は農場での季節労働を選択し戦時転住局の収容所を去った。その理由のいくつかは、より良い賃金が稼げること—農業労働者は強制収容所内で得られる1ヶ月分以上の収入を数日間で稼ぐことができた、銃を持った警備員たちや有刺鉄線に囲まれ監視される生活から逃れる機会、働くことにより戦争運動に貢献するチャンス、といったことが挙げられた。また西海岸に居住していた日系人の45パーセント以上は戦前からすでに農作業の経験があった。

収容所新聞ミニドカ・イリゲーターに1943年に掲載された募集広告は、季節労働は監禁生活を強いる強制収容所を去る好機であると強調しただけでなく、さらには日系人が監禁され人権を剥奪されている事実を無視し、この労働は日系人のアメリカ合衆国に対する愛国心を示すものであると売り込んだ。

発行された季節労働契約

強制収容所	1942	1943	1944
集合センター(仮設収容所)	1,579	該当なし	該当なし
アリゾナ州ヒラ・リバー	8	432	362
コロラド州グラナダ	1,401	1,659	819
ワイオミング州ハート・マウンテン	1,395	2,908	1,731
アーカンソー州ジェローム	0	207	36
カリフォルニア州マンザナー	1,142	640	870
アイダホ州ミニドカ	1,850	3,822	3,022
アリゾナ州ポストン	816	1,445	859
アーカンソー州ローワー	0	518	617
ユタ州トパーズ	686	1,381	1,150
カリフォルニア州ツール・レイク	990	1,050	1
合計	9,867	14,062	9,467

プログラムの終了

1944年、季節労働出所プログラムは終了した。季節労働参加者の半数以上は彼らの労働を強制収容所からの無期限出所に切り替えることができた。この3年の間、農場労働に従事した日系アメリカ人は西部の州にて数千エーカーにおよぶ砂糖大根の栽培と収穫に取り組んだ。そして彼らは砂糖大根耕作地の約5分の1を保護した功績を認められた。

彼らの物語は、第二次世界大戦史において小さくも非常に重要な一章である。



1942年4月、ラッセル・リーが記録した、ロサンゼルスから立ち退きを強いられる日系アメリカ人たち。

写真家:ラッセル・リー

この展示会ではラッセル・リーにより撮影されたオレゴン州ナイッサ、アイダホ州ルパート、シェリー、ツイン・フォールズ周辺の日系アメリカ人農場労働キャンプの写真資料を選別し特集している。農業安定局(FSA)の写真家であったリーは、戦時下における日系人の体験、またその姿をとらえおよそ600枚の画像に残した。1935年から1944年にかけてFSA情報部門の歴史資料部は、約175,000枚のモノクロのネガティブ・フィルムと1,600枚のカラー画像を生み出したドキュメンタリー写真プログラムを管轄した。1942年4月、ラッセル・リーが記録した、ロサンゼルスから立ち退きを強いられる日系アメリカ人たち。

このプロジェクトはアメリカ合衆国内務省・国立公園局・日系アメリカ人監禁地奨学金プログラムと全米人文科学基金のプログラムである、アイダホ人文科学協議会から助成金を受け、実現したものである。この資料に著されているいかなる意見、調査結果、結論、もしくは提言等は著者に帰属するものであり、必ずしもアメリカ合衆国内務省またはアイダホ人文科学協議会の見解を反映したものではない。

UprootedExhibit.com

Twitter: @UprootedExhibit #uprootedexhibit